

EU Indicators

欧州経済指標コメント：10-12月期ユーロ圏GDP速報値

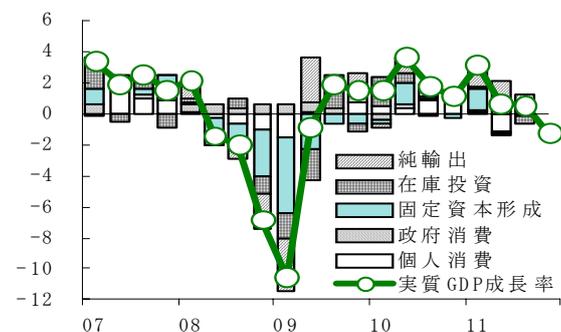
発表日：2012年2月16日(木)

～2年半振りのマイナス成長転落も、一部指標には底入れの兆し～

第一生命経済研究所 経済調査部
 首席エコノミスト 田中 理
 03-5221-4527

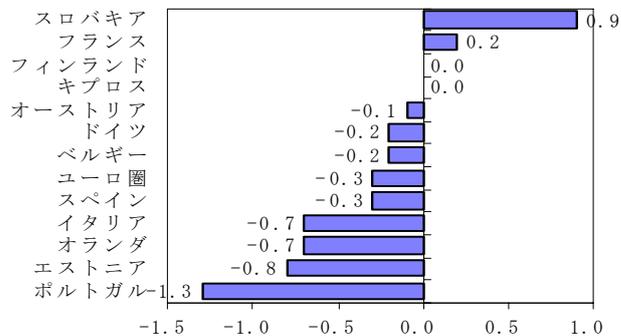
- ・ 昨年10-12月期のユーロ圏の実質GDP成長率の速報値は前期比▲0.3%、同年率▲1.3%と、2009年4-6月期以来のマイナス成長を記録。国別には、フランス(同+0.2%)が予想外のプラスとなった一方、ポルトガル(同▲1.3%、5四半期連続マイナス)、イタリア(同▲0.7%、2四半期連続マイナス)、スペイン(▲0.3%、2年半振りのマイナス)など財政不安国が総じてマイナスとなったほか、これまでユーロ圏景気を支えてきたドイツ(同▲0.2%)もマイナスに転じた。オランダ(▲0.7%)やベルギー(▲0.2%)も2四半期連続のマイナスと景気後退局面入り。なお、ギリシャは前年比計数のみ公表されているが、7-9月期：▲5.0%→10-12月期：▲7.0%にマイナス幅が拡大した。
- ・ 1月のユーロ圏のPMI総合指数が5ヶ月振りに景況判断の分岐点である50を回復するなど、足許の景気には回復の兆しも出てきている。ただ、PMI指数はドイツなど中核国の動向を反映しやすく、南欧諸国での財政引き締め強化を受け、1-3月期のユーロ圏の成長率もマイナス圏にとどまる可能性が高い。年間の成長率に影響が及びやすい10-12月期と1-3月期の成長率が揃ってマイナスとなることで、2012年の成長率も小幅マイナスが避けられない。但し、金融市場の緊張がやや緩和していることや、欧州の債務危機を起点とする世界的な経済金融危機に対する不安感が薄れるなか、企業・家計の過度な悲観論の後退が予想され、景気の一時的な落ち込みには歯止めが掛かる公算が大きい。

■ユーロ圏：実質GDP成長率(前期比年率、%)



出所：Eurostat

■2011年10-12月期の実質GDP成長率(前期比、%)



出所：Eurostat

■ユーロ圏GDP(前期比年率<%>、括弧内は寄与度<%ポイント>)

	名目GDP	実質GDP	内需				外需		輸出	輸入
			個人消費	政府支出	固定資本投資	在庫	輸出	輸入		
10/1-3月期	2.4	1.5	(1.7)	0.9	▲1.7	▲1.6	(1.9)	(▲0.2)	13.9	15.1
10/4-6月期	4.8	3.6	(2.6)	0.6	0.9	7.7	(0.6)	(1.0)	20.0	18.0
10/7-9月期	2.8	1.7	(0.9)	1.4	0.4	0.9	(▲0.1)	(0.8)	8.8	7.1
10/10-12月期	1.6	1.1	(0.7)	1.4	▲0.0	▲1.5	(0.2)	(0.4)	5.9	5.2
11/1-3月期	4.9	3.1	(1.8)	0.1	0.8	7.6	(0.2)	(1.3)	7.4	4.4
11/4-6月期	2.3	0.6	(▲0.8)	▲2.1	▲0.6	▲0.4	(0.7)	(1.4)	5.1	1.9
11/7-9月期	2.0	0.5	(▲0.2)	0.9	▲0.3	▲0.4	(▲0.6)	(0.8)	4.8	3.2
11/10-12月期	-	▲1.3	-	-	-	-	-	-	-	-

出所：Eurostat

本資料は情報提供を目的として作成されたものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。作成時点で、第一生命経済研究所経済調査部が信ずるに足ると判断した情報に基づき作成していますが、その正確性、完全性に対する責任は負いません。見直しは予告なく変更されることがあります。また、記載された内容は、第一生命ないしはその関連会社の投資方針と常に整合的であるとは限りません。